

大阪大学図書館報

Vol.30 No.1 July, 1996 (平成8年) 通巻122号

目次

- 民事判決原本の一時保管
- 図書館ホームページの開設について
- 学術情報検索システムのデータベース追加について
- お知らせ・会議・日誌

民事判決原本の一時保管

國井 和郎

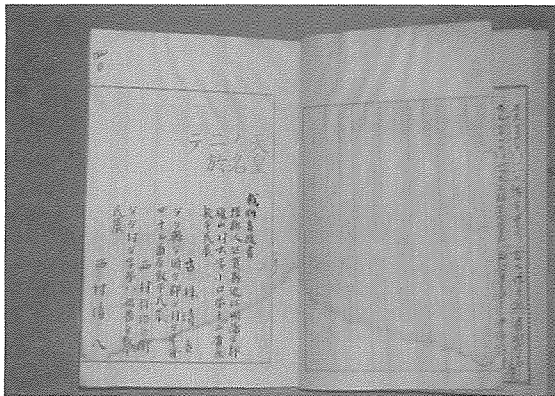
法学部は、大阪高等裁管内の全裁判所に係る民事判決の原本のうち、明治初年から昭和一八年末までの分を一括して保管している。この判決原本は廃棄される運命にあったが、関係各位のご努力と本学の本部事務局・図書館のご協力を得て移管されたものである。

刑事裁判の確定後、検察庁が判決書などを保管するが、民事訴訟では、裁判所が確定後の判決原本その他の訴訟記録を保管し、従前、判決原本は永久保存とされていた。ところが、最高裁判所は平成四年一月二三日、判決原本が大量になり、保管場所が手狭で、かつ費用・手数がかかるのに、古い判決原本は殆ど利用されない等々の理由から、確定後五〇年を経過した判決原本を原則として廃棄することに改め、その廃

棄を平成六年一月一日以降に行うものとした。かくして、昭和一八年末までの判決原本の廃棄が必至となった。

各方面から強い反対の要望にもかかわらず、最高裁は方針を変更しなかったが、国立大学法学部の民事法、法制史関係者が結成した「判決原本の会」の働きかけが奏功して、廃棄が免れたのである。判決原本の会は数度の折衝を通して代案提示の必要性を痛感し、平成五年一〇月、国立大学の法学部長に判決原本の一時保管方を打診し、多くの大学から承諾の回答を得て、改めて交渉したところ、最高裁判所は同年一二月、国立大学への移管を受け入れ、移転時期等は裁判所と受入大学が協議して決める旨の合意が成立した。

北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、香川大学、九州大学、岡山大学、熊本大学の法学部が判決原本の受入を決め、大学側の公式機関として、平成六年二月、受入大学および京都大学の法学部長による「判決原本の一時保管に関する連絡会議」と、各大学一名の幹事からなる「判決原本の一時保管に関する連絡会議幹事会」を発足させ、受入体制を整え、右幹事会代表が移管等につき、最高裁事務当局と協議した結果、同年七月二一日、各受入大学の法学部長と最高裁判所事務総局総務局長との間で、「大学は、判決原本の整理修了後、これを学術的な調査研究のための利用に供し、他の用途に供しない。これを閲覧または複写させる場合には、事件関係者のプライバシーの保護に十分配慮する」等の合意が整い、移管作業は平成七年九月をもってほぼ完了した。



かくして、判決原本は廃棄を免れ、学術研究の対象となったが、同時にプライバシー保護などの難問に直面した。そこで、判決原本の保存と利用に関する当面および将来の問題を調査研究する目的で、「判決原本の会」を母体に幅広い専門家の参加を得て「判決原本保存利用研究会」（座長、林屋東北大学名誉教授）を結成し、プライバシー問題のほか、判決原本の保存対策、データベース化、外国法制さらには恒久計画いかんを調査研究し（成果の一部は、ジュリスト一〇七八号に発表）、もって保管に遺漏なきを期している。

廃棄予定の判決原本はB5サイズで厚さ二二〇〇メートルに達するが、大阪高裁管内分は四二〇メートルで、東京高裁管内分の六〇〇メートルに次いで多く、全国の約二割に及ぶ。これを収容する場所は法学部になく、判決原本の会から一時保管を打診された折、法学部はその対処に窮した。しかし、時の松岡博法学部長は受入方を摸索し、熱心に本部事務局や図書館を説得された結果、幸いにして図書館三階の元コンピューター室を提供して頂けた。これにより、大阪高裁管内分は一括して大阪大学への受入が可能になった。判決原本の会としても、大阪高裁管内分の処遇は大きな懸念材料で、その引受手がなければ、計画全体が水泡に帰するところであった。その意味でも、本学の決断の意義は大きい。

提供を受けた部屋は、空調設備の完備など判



決原本の保管場所として好環境である。しかも、大阪大学が受け入れた判決原本の厚さは当初予定の約二割増しで、用意した本棚では足りず、したがって余分のスペースを要したが、全て収納でき、かつ開架式本棚に整理しうる広さを備えていた。このほか、本部事務局および図書館には有形・無形の援助を賜った。お蔭で、大阪大学は最良の部類に属する条件で原本の保管をなしえている。

法律学では「ボロニアの復活」という話があ

る。ローマ法大全が象徴するローマで隆盛を極めた法学はローマ法大全の編纂後に衰退し、法律学の復興は大学の創設と同じく一二世紀のボロニアで、それは久しく散逸し忘れられていたローマ法大全の一部写本が偶然発見され、ローマ法研究が再開されたことに由来する。このボロニアの復活が西欧の法学発展の端緒であり、それが近代民法典さらには日本民法誕生の礎となった。これほど、学問研究における資料と資料保存の重要性を示すドラマティックな例証はないであろう。

判決原本の一時保管はボロニアの復活には及ばないまでも、判決原本の持つ学問的価値、文化遺産、歴史資料としての意義等々からして、学術研究の対象として無限の可能性を秘めた素材を後世に残す事業である。判決原本は、鯉節に飛びつく猫を待っている。しかし他方、事件

関係者のプライバシーは厳然と守られなければならないし、利用により劣化を招くことがあってはならず、またデータベース化も必要で、問題がなお山積している。ちなみに、受入時に保存状態の調査と照合整理の作業を実施したが、昨年の夏期休暇中、教官四名が立会い、毎日二〇名程度の学生アルバイトが八日かかって約三分の二程度の作業を終えたにすぎない。真に学術研究の用に供するためには、専門的知識と能力を備えた職員が配置され、設備・環境の整った施設が必要であろう。

最後は望蜀の希望で、法学部が貴重な司法資料を保管しうるに至ったことは光栄の極みであり、このためにご尽力賜った皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

(法学部長 くにい かずお)

大阪大学附属図書館ホームページの開設について

前号でもお知らせしましたように、このたび附属図書館のWWW ホームページが開設され、今年4月より一般公開しております。内容については、今後も随時改訂が加えられる予定ですが、現在公開している情報を簡単にご紹介します。

このホームページは、大阪大学のホームページ、及び東京工業大学附属図書館で作成している「日本国内の大学図書館関係 WWW サーバ一覧」のページからもリンクされています。

◆English Version

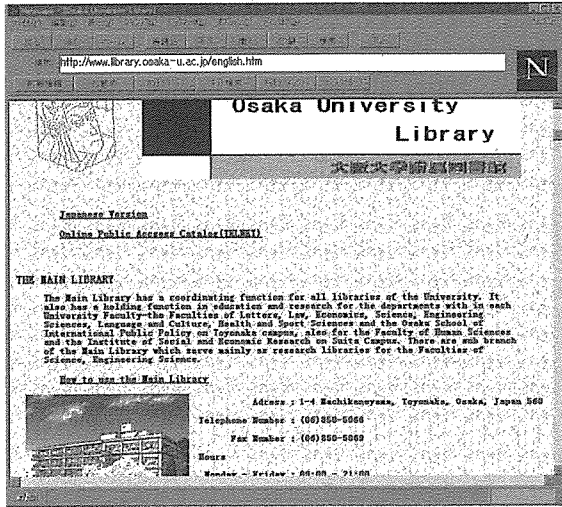
本館および生命科学、吹田各分館の概要、および利用時間、所在地、連絡先などを英語で紹介しています。また、本館の利用案内、蔵書検索マニュアルの英語版にもリンクしています。



<http://www.library.osaka-u.ac.jp/>

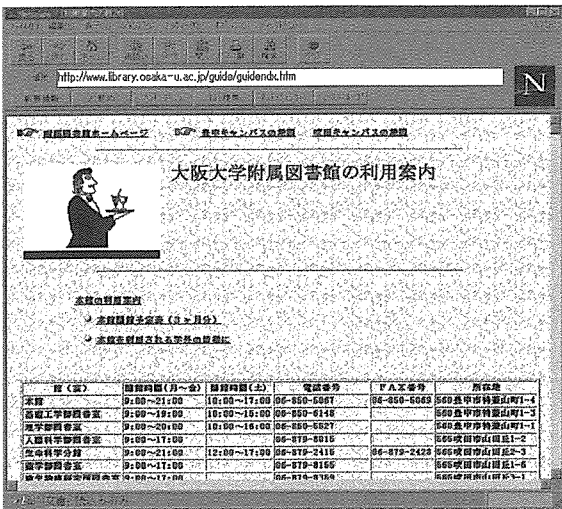
◆お知らせ

サービス時間の変更や新しいサービスの開始など、図書館からの最新のお知らせを掲載するページです。



◆利用案内

利用案内のページには、学内各図書館、図書室の一覧表が載っています。ここから本館利用案内のページ、開館予定表のページ、学外の方角への利用案内のページにリンクしています。また、豊中、吹田各キャンパスの図書館案内図を見ることができます。



◆蔵書検索 (TELNET)

ODINS 経由で利用する TELNET 版 OPAC の概要を説明しています。ここから TELNET ソフトを使って直接 OPAC に接続することもできます。(TELNET ソフトの種類、またはご使用されているパソコン等の環境によっては、直接アクセスできない場合もあります)。詳しい使用説明が載っているマニュアルのページにも、ここからアクセスできます。

◆学術情報検索システムの案内

ODINS を経由して附属図書館のサーバに置かれたデータベースを検索する学術情報検索システムの案内です。図書館からのお知らせ、利用方法などを読むことができます。このシステムを利用するには、部局のメーリングリストに加入する必要がありますが、その一覧もこちらから見るすることができます。



◆図書館報

大阪大学図書館報の主要記事が、29 巻 2 号 (1996 年 9 月) 分より掲載されています。

◆学外の情報サービス

図書館、書店、出版社、新聞社、公官庁・国際機関、情報検索サービス機関、電子ジャーナル関係、博物館・美術館、アジア関係の各項目について、それぞれ関連するリンクを集めたページにリンクしています。また、日本と世界の WWW 検索ページにもリンクしています。

「お知らせ」、「図書館報」については、新しい情報が入るごとに、逐次追加していきます。また、その他の情報についても、必要に応じて更新していきます。

今後提供する予定の情報としては、次のようなものがあります。

◆電子ジャーナル

WWW上で提供される電子ジャーナルにアクセスできるようにします。ただし、利用は阪大に所属する方に限られます。今年は試行的に、Physical Review Letters Onlineを提供する予定です。

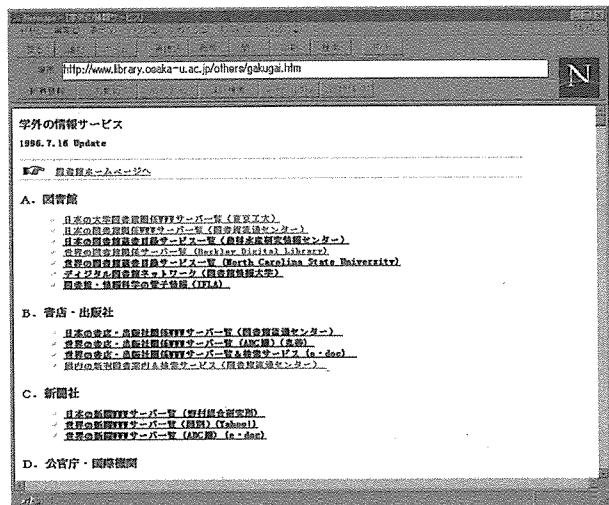
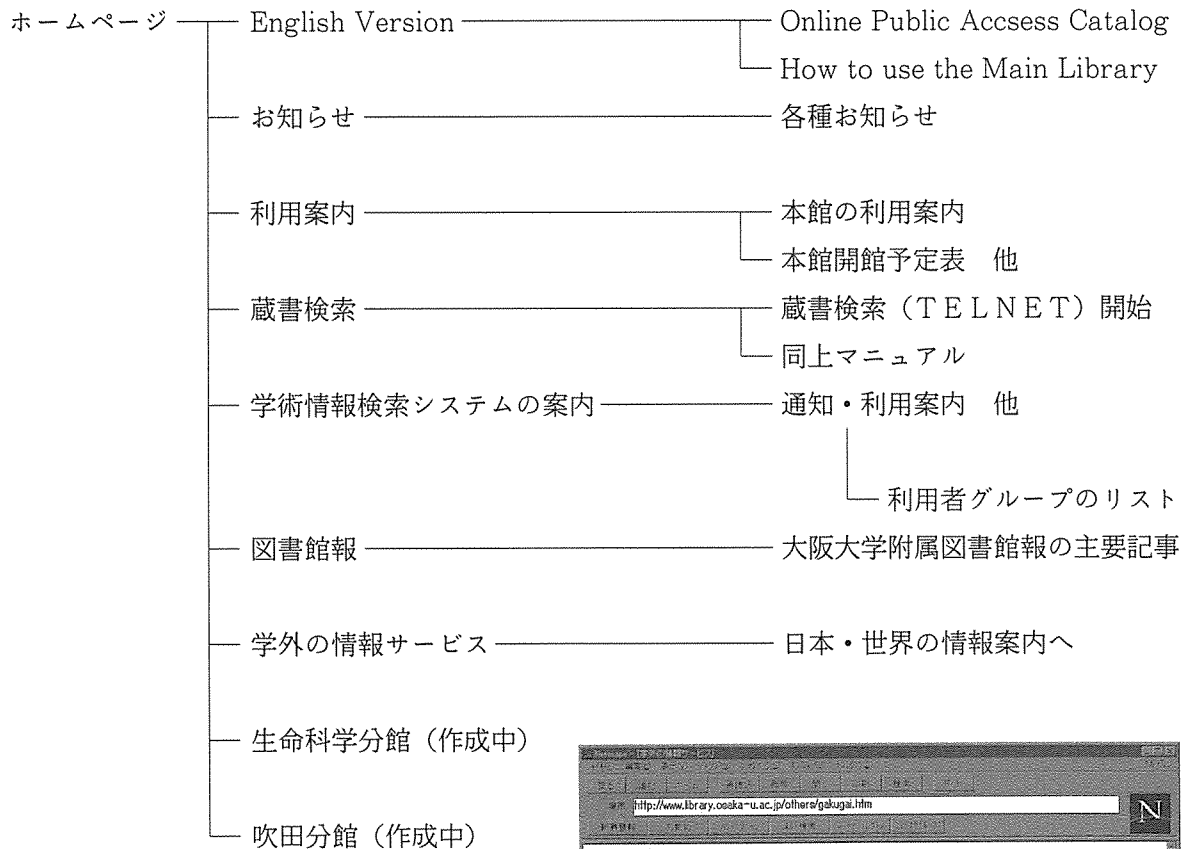
◆生命科学分館、吹田分館のホームページ

現在、それぞれの分館で作成準備中です。

なお、図書館ホームページについてのご意見、ご質問は、下記のアドレスまで電子メールでお願いします。

www-admin@library.osaka-u.ac.jp

図書館ホームページのページ構成図 (1996年6月末現在)



学術情報検索システムのデータベース追加について

附属図書館では昨年度より学術情報検索システムとして、ODINS 経由で利用できるデータベースを提供しています。昨年度は MEDLINE、HRAF Cross Cultural の 2 種類だけでしたが、今年度より、新しく 10 種類が加わるようになりました。このうち 6 種類は、これまで Medline、Cross Cultural を利用していただいていたのと同じく、検索ソフト SPIRS から利用できるものです。これまで SPIRS をお使いいただいていた方には、メニュー画面から選ぶだけで簡単に利用ができます。

SPIRS で検索できる新しいデータベース

Index to Legal Periodicals

米、英、カナダ、オーストラリアなどで刊行された英、仏、スペイン語の法律文献情報。615 種類の逐次刊行物、約 2000 の法律書を対象とし、引用は、Harvard Law Review Association 刊行の「A Uniform System of Citation」に準ずる。収録範囲は 1981 年～。

ERIC

米 ERIC 作成の教育文献情報で、教育学分野の代表的データベース。ドキュメント類の「RIE(Resources in Education)」、約 750 種の雑誌、定期刊行物をカバーする「CIJE(Current Index to Journals in Education)」の 2 ファイルがある。収録範囲は 1982 年～。

EconLIT

経済理論、経済史、金融理論、財政学、労働経済学、国際・地域、都市経済学などを対象に、400 種の定期刊行物をはじめ、学位論文、単行本、会議録などからの文献約 20 万件を収録。収録範囲は 1969 年～。

PsycLIT

心理学、行動科学分野の文献情報。50 カ国、27 カ国語で書かれた 1300 誌を対象として、約 57 万件の論文データを収録。人間心理、コミュニケーション、言語、個性、教育、精神鑑定、神経症などの分野をカバーする。収録範囲は 1973 年～。図書を対象にした Chapters & Books も収録されている。

MLA International Bibliography

米 MLA (Modern Language Association of America) 制作の言語学、文学関連の文献情報で、3000 種以上の雑誌、モノグラフ等を収録。現代言語、民話、言語史等、欧米、アジア、アフリカもカバーする。収録範囲は 1963 年～。

COMPENDEX Plus

Engineering Information 社が作成する、工学・技術文献のデータベース。世界各国の雑誌、図書、会議録、テクニカル・レポート等を対象とする。工学・技術分野全般のほか、関連諸科学、土木、建築、環境、交通関連文献等、広範な領域をカバーしている。収録範囲は 1987 年～。

なお、これらのデータベースは図書館に配置している端末からは自由に検索ができますが、研究室等から検索するには、ID と検索ソフトを取得する必要があります。詳細については、今号で紹介している図書館 WWW ホームページの、「学術情報検索システム」のページをご覧ください。また、利用申込に関する問い合わせは、電子メールで db-inq@radiol.med.osaka-u.ac.jp までお願いします。(個人で申し込むものではありませんのでご注意ください。)

専用ソフトを必要とする新データベース

それぞれ専用ソフトを必要とするもので、現在図書館において動作テストや利用上の問題の検討等を行っております。公開までしばらくお待ちください。

Global Books in Print Plus

欧米の主要書誌情報「Books in Print Plus」等を元にした国際書誌情報。現在入手可能な英語の書籍に関する情報がほぼ網羅されている。

Dissertation Abstracts Ondisc

米国と世界の1000以上の大学・研究機関などで認定された博士・修士論文情報。収録範囲は1993年～。

CA on CD

幅広い科学技術分野をカバーする化学関連の代表的データベース、Chemical AbstractsのCD-ROM版。1995年発行分からのデータを収録。

Ulrich's Plus

世界の定期刊行物、不定期刊行物、年刊類の書誌情報。

また、ODINS経由データベースの他にも、「判例体系」(本館)、「ADAM」(生命科学分館)等の新しいCD-ROMソフトが検索できるようになりました。「雑誌記事索引」CD-ROM版も、近く本館、生命科学・吹田各分館でサービス開始される予定です。

■■■■■ お知らせ ■■■■■

○ 開館時間等の延長

4月より、附属図書館本館の土曜日の開館時間が、10時から17時までに延長されました。これに合わせて、書庫棟の利用、共同研究室の利用も10時からとなりました。開館時間中は資料の貸出も可能です。

また、月曜～金曜の図書の貸出、書庫棟の利用も、20時までに延長されました。

○ OPAC 使用時間の拡大

ODINS経由での図書館OPAC(オンライン目録)は、これまで土曜日には利用できませんでしたが、4月より土曜日の10:00～17:00にも利用できるようになりました。また、電話回線によるOPACも、土曜日の同時間帯に利用できるようになりました。

なお、OPACの使用方法については、大阪大学ホームページからも参照できます。

○ 本館の閲覧用雑誌の更新

本館の雑誌閲覧コーナーで提供している雑誌のタイトルが一部変わりました。

- ・平成8年度より新規購入タイトル
『週刊金曜日』、『諸君!』、『中国語』、
『Internet Magazine』、『PC fan』
- ・平成7年度で購入中止タイトル
『無線と実験』、『トランジスター技術』、
『BIT』、『Computer Digest』、
『Computer Report』

○ 情報処理教育センターの端末設置

附属図書館本館一階の第一開架閲覧室前に、情報処理教育センターの端末が10台設置されました。利用するには情報処理教育センターのIDが必要です。利用方法等については、同センターにお問い合わせください。

■■■■■ 会 議 ■■■■■

豊中地区運営委員会

8. 3. 15 (金) 14:05~14:45(本館会議室)
1. 本館の利用に関する諸規程の一部改正について審議し、原案どおり承認された。
 2. 次期豊中地区運営委員会委員長の選出を行い、投票の結果、柏木隆雄委員(文学部)が選出された。

図書館委員会

8. 3. 15 (金) 15:00~16:15(本館会議室)
1. 平成8年度事業費予算要求について審議し、原案どおり承認された。
 2. 平成9年度新規概算要求について審議し、原案どおり承認された。
 3. 生命科学分館運営委員会規程の一部改正について審議し、原案どおり承認された。

生命科学分館運営委員会

8. 5. 15 (水) 15:00~16:30(生命科学分館会議室)
1. 部局分担金による購入雑誌見直しのために実施したアンケート回答結果について協議した(継続審議)。

吹田地区運営委員会

8. 5. 9 (木) 14:30~15:45(吹田分館会議室)
1. 吹田分館学生用図書購入費の執行方法について審議した結果、吹田分館備付けの研究用雑誌等の購入については、関係部局の受益者負担とすることが了承された。
 2. 部局の名称変更及び大学院重点化による組織変更に伴う吹田地区運営委員会規程等の改正案について審議され、承認された。

■■■■■ 日 誌 ■■■■■

- | | | |
|-----------|------------------------|------------|
| H 8. 3. 7 | 近畿地区国公立大学図書館協議会主題別研究集会 | (京都大学) |
| 3. 11 | 総合目録委員会 | (学術情報センター) |
| | 図書館情報システム特別委員会 | |
| | 次期電算化システム専門委員会 | (東京大学) |
| 3. 15 | 豊中地区運営委員会 | (本館) |
| | 図書館委員会 | (本館) |
| 4. 24 | 近畿地区国立大学図書館協議会 | (京都大学) |
| 〃 | 国公立大学図書館協議会企画委員会 | (京都大学) |
| 5. 9 | 吹田地区運営委員会 | (吹田分館) |
| 5. 15 | 生命科学分館運営委員会 | (生命科学分館) |
| 5. 21~22 | 日本医学図書館協会総会 | (神戸市) |
| 5. 28 | 国立大学附属図書館事務部課長会議 | (東京医科歯科大学) |
| 5. 29 | 国立大学図書館協議会常務理事会 | (東京大学) |
| 5. 30 | 国立大学図書館協議会理事会 | (東京大学) |